

(様式1・小学校用①)

令和2年度 学校評価報告

草加市立栄小学校
(令和3年2月1日作成)

1 学校教育目標 よく考える子〔知〕 思いやりのある子〔徳・情〕 ねばり強い子〔意〕 体をきたえる子〔体〕 －児童一人一人を大切に、さわやかで活気あふれ、笑顔かがやく栄小学校－ 【キャッチフレーズ】 「さわやか かつき えがお の さかえ」	
2 重点目標・努力目標 1 学級・学年経営の充実 2 学習指導の充実 3 豊かな心を育む指導の充実 4 健康な体づくりの推進 5 生徒指導の充実 6 開かれた学校づくりの推進 7 特別支援教育の推進	3 前年度の成果と課題 成果 ○幼保小中との一貫教育の推進、大学との連携を通じ、地域の教育コミュニティづくりを進めることができた。 ○学力・学習状況調査（国・県・市）の結果から各学年の学力の平均値、学力の伸びについて良好な状況にある。 課題 ●外国語活動・外国語科の授業を充実させることで、児童のコミュニケーション力を高め、各教科における主体的、対話的で深い学びを意識した授業改善を実施する。

4 評価表 ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○学校経営目標や方針について共通理解を図り、教職員が協働・協力して学校教育目標の実現を目指す学校づくりを推進した。 ○適正な予算管理・執行ができた。 ○職員会議の効率化に向けた組織的な運営が行われた。 ●目標達成のための運営方法の検討を重ね、更に機能的な組織づくりを行う。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○外国語活動・外国語科の研修における主体的・対話的で深い学びの授業展開について研修し、その成果を発表した。教員の授業力を向上させることができた。 ●オンライン等を含め、校外研修に積極的に参加させ、教師一人ひとりの強みを生かした一層の授業改善・人材育成を図る必要がある。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○コロナ禍において、校内の感染防止対策を工夫し、安全管理を徹底した。 ○定期的な防犯ブザーの点検、声出し訓練の実施、安全点検、保健指導の充実を図ることができた。 ●各種マニュアルの更なる改善を行い、教職員への周知と活用を徹底する。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○倫理確立委員会を通じ、個人情報の管理、情報漏洩の防止などへの意識を高めることができた。 ○施設設備の適正な管理が図れた。 ○開放団体・施設使用団体と連携し、施設の有効活用に努めた。 ●設備管理・情報管理マニュアル等の見直しを随時行い、適切に管理していく。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○「学校だより」やHP等を通じて、教育活動等を保護者・地域へ発信し、家庭・地域との共通理解が深まるよう努めた。 ○コロナ禍における授業参観・学校公開を検討し、校庭でのスポーツ活動の参観を実施することができた。 ○年4回学校運営協議会を開催し、学校運営方針への理解、課題等の協議を行い解決することができた。 ●コロナ禍における開かれた学校づくりについて、工夫改善を図る。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○中学校区で幼保小中を一貫した教育について、研究主題や組織編成の見直しを行い、具体的取組を共有し、教育活動の充実を図った。 ●各学年での交流内容を見直し、効果的に実施する。 ●教育カリキュラムをすり合わせ、共有化を図る。

(様式1・小学校用②)

草加市立栄小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍における教育計画を工夫し、授業時数を確保することができた。 ○教育目標の実現を目指す具体的取組について、学校全体で共通理解を図り、協働して実践した。 ●教育目標の「ねばり強い子」「体をきたえる子」の具現化に向けた取組の一層の推進を図る。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語活動・外国語を研究教科とした校内研修の成果を生かし、主体的・対話的深い学びの視点を大切にされた授業改善を図り、学力向上につながった。 ●コロナ禍における外部人材の活用方法を工夫し、積極的に活用する。 ●評価と関連させた主体的・対話的深い学びの授業改善の一層の推進を図る。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳ファイルの活用を通じ、家庭と連携し、児童の道徳的実践力の育成が図れた。 ○道徳の授業研究を計画的に行い、新学習指導要領を踏まえた授業改善に努めた。 ●「考え議論する道徳」の視点に立った研修を重ね、更なる授業改善を行う。 ●各教科との関連を深めるための指導計画の見直しを図る。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○研修及び研究発表を通じて、授業改善が図られ、外国語活動のみならず教員の指導力向上に繋げることができた。 ○全学年でSEタイムを効果的に実施し、外国語に親しみ、意欲的に活動する児童の育成が図られた。 ●授業・評価の一層の工夫・改善を図る。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童会を主体とした挨拶運動の取組など、日常的な活動を通して、児童のよりよい人間関係づくりを行うことができた。 ●児童会活動など、児童が自主的に運営する計画を工夫し、取組の充実を図る。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○できる範囲内で配慮と工夫をしながら、児童に達成感を味わわせる学習活動を実施することができた。 ○ICT機器を積極的に活用することにより、学習活動を充実させることができた。 ●「ふるさと草加」の学習や地域人材の有効活用を位置づけた教育課程の編成を行う。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導委員会・教育相談部会の組織運営を見直し、迅速な情報共有が図られ、組織的な対応を進める。 ○いじめ防止対策委員会を計画的に実施し、解消に向けた組織的な取組が実施された。 ●全職員の共通理解のもと、学校・家庭・地域との更なる連携強化を図る。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスポートの活用について、栄中学校区で共通理解を図り、具体的取組を共有して進めることができた。 ●キャリアパスポートの実施を通じ、児童一人ひとりの自立意識や職業観・勤労観をよりよく育むための教育活動の工夫改善を行う。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者と連携し、児童一人ひとりの教育ニーズに応じた個別の指導計画・教育支援計画に基づき、指導方法を工夫しながら教育の充実に努めた。 ○コーディネーターを中心に研修を行い、教職員の共通理解、指導方法の工夫と改善を行った。 ○積極的に諸機関と連携し特別支援教育の充実・推進を図った。 ●通常学級に在籍する教育的支援を要する児童への共通理解と校内支援体制の充実を図る。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○読書活動の充実を図り、楽しみながら進んで読書する児童の増加につながった。 ○司書教諭、学校司書が連携して図書を紹介や掲示を行い、魅力ある図書館づくりが進められた。 ●意図的・積極的な読書活動を充実させ、読書の習慣化につなげる。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○指導方法の工夫・改善を行い、教科指導でのICT機器の活用を積極的に進めることができた。 ●情報モラル教育の適切な指導の徹底を図る。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の人権感覚を高めるため、全校集会、学年集会、学級指導等、様々な場面で繰り返し指導を行い、自他ともに大切に、互いに認め合える児童の育成に努めた。 ●各教科と関連させた全体計画の工夫改善を行い、学校全体で人権感覚の一層の育成を図る。

草加市立栄小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	①特色ある学校づくり	・地域の人材活用 ・体験活動の推進	B	○コロナ禍において、予定されていた活動の多くを中止せざる状況の中で、活動方法を見直し、感染防止対策を徹底しながら、できる限りの体験活動に取り組んだ。 ●地域人材活用・体験活動の一層の充実、新たな活動の開発に努める。
	②学力、体力の向上	・栄っ子の基礎基本 ・学力向上のための指導法の工夫 ・体育の授業の充実	B	○栄小スタンダードを踏まえた授業実践や県学力・学習状況調査の結果を分析し、児童の実態と課題を明確にした上で、課題解決の手立てを工夫したことにより、全体的な学力の向上につながった。 ●体力的課題の克服に向けた取組を充実するための体育授業の指導法の工夫・改善を実施する。
	③一人一人を大切にし、信頼関係に立った生徒指導の充実	・共通理解・共通行動で組織対応する生徒指導 ・一人一人によりそい信頼関係に立った生徒指導	A	○生徒指導委員会、教育相談部会の組織体制を見直し、学校全体で生徒指導課題への対応を協議し、役割の分担や協力して指導にあたるよう組織的に行動した。 ●児童一人ひとりをかけがえのない存在として大切にすることを根底において、児童理解に努め、問題行動等の未然防止、早期発見、適切かつ迅速な解決に組織的・積極的に取り組んでいく。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・「第三次草加市教育振興計画(笑顔かがやく草加教育プラン)を踏まえ、学校教育目標の実現を目指し、全教職員が「凡事徹底」「率先垂範」「協働・協力」を合言葉に教育活動の充実に努め、児童が全体的に落ち着いて、明るく元気に学校生活を送ることができている。
- ・新学習指導要領が全面実施されたことを踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点から「草加の学びを支える授業の5か条」や自校の学力向上プランに基づく授業改善を日常的に行い、学校全体としての学力向上が、教職員の指導力の向上につながっている。
- ・外国語活動・外国語科における校内研究を軸として、校内研修体制が整備され、年度当初から計画的・組織的に教育実践を積み重ねてきたことにより、他教科・領域においても、授業改善や具体的な取組の充実が図られている。
- ・栄中学校区の子どもの実態や課題を把握し、研究主題の見直しや研究組織の再編を行い、中学校区の目指す子ども像の実現に向けた幼保小中を一貫した教育の具体的な取組を進めることができている。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策等、児童の安心安全確保のため、学校全体を学習面・安全面など様々な視点から適切に管理することに努めている。状況の変化に応じて、随時取組内容の工夫改善を行い、教育環境の整備を進めている。
- ・学校運営協議会を通して、危機管理の在り方などについて、協議することにより、学校運営における課題解決に向けた開かれた学校づくりの在り方や保護者・地域の願いや思いに寄り添いつつ、手立てを工夫していくことにつながっている。

6 次年度の改善策

- ・学校教育目標「ねばり強い子」「体をきたえる子」がよりよく実現されるよう、学校行事をはじめとして、児童が目標をもち、それに向かって努力し、やり遂げる機会を計画的・意図的に工夫し、教育活動の一層の充実を図る。
- ・教職員一人ひとりの強みを生かし、それぞれの力が最大限に発揮されるようバランスのとれた校内組織を編成し、効率よく機能させることにより、学校のチーム力の更なる向上に努める。
- ・学校運営協議会を活用し、家庭・地域の声に耳を傾け、学校に寄せられる要望等に誠実に対応することで、学校教育への家庭・地域の理解を深め、協力を得られるようにしていく。
- ・社会に開かれた学校づくりを進めるために、学校の教育活動を公開する機会を増やしていくと共に、学校・学年・学級だよりや学校HP等による学校からの積極的な発信を行っていく。
- ・幼保小中を一貫した教育の更なる推進を図るため、15年間を見通した教育課程の編成を見直し、中学校区の各校・各園が共有することにより、教職員間の共通理解を深めながら、計画的に具体的な取組を継続していく。
- ・生徒指導・教育相談について、意図的・積極的な取組を更に強化していく。関連機関やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとの連携を密にして、組織的に対応していくことにより、問題行動やいじめの未然防止、早期発見、早期解決や不登校の解消につなげていく。

